

わたしたちの 身近な暮らしにある 「助け合い、支え合い」



消火器を使った防災訓練 (写真:加悦奥区提供)



よさの乗合交通

住み慣れた地域が「いつまでも暮らしやすく、これからも住み続けたい」と、みんなが感じられる地域社会をめざし取り組まれてきた事例を、3回シリーズで紹介しています。シリーズ3回目（最終回）となる今回は、地域課題の解決に向けて、多様な主体と行政の協働による事業事例をピックアップしました。

※ 前回は広報よさの12月号（No.226）に掲載しています

図 企画財政課 ☎ 43-9015

事例 1

地域の中に 子どもたちの 居場所を キッズステーション

与

謝野町では、地域のすべての子どもを対象とした居場所、遊び場、地域住民との触れ合いの場となる拠点づくりを支援し、地域ぐるみの子育てを応援しています。

現在、7つのキッズステーションがあり、自治会や社会福祉法人、地域活動団体などにより運営されています。下校後の子どもたちの見守り事業や学校の長期休暇中のゆるやかな学童保育事業、森遊びや川遊びといった体験型事業など、子どもたちにとっても、地域の大人たちにとっても、身近な場所であふれあひ、つながる機会になっています。

令和2年度からスタートした



キッズステーションを利用する子どもたち (写真:幾地区提供)

キッズステーション事業は、令和5年度までで延べ約8000人の子どもの利用がありました。子どもたちは、地域のさまざまな方々とのかわりの中で育ちます。地域の子ども同士が交流する、地域の大人たちが子どもたちを見守る場所がある、そして、顔が見える関係の地域になる。子育てするならこのまちで——。安心して子どもを生み育てられるまちを、地域・住民の皆さんとの協働でめざしています。

事例 2

地域の 暮らしを守る

加悦地域支え合い 交通運営協議会

与

謝野町では、バスの運転士不足や高齢化、人口減少に伴い、公共交通の維持が大きな課題となっています。

そういった中、バス路線から離れた地域に住む方々の移動手段を確保するため、桑飼地区では地域住民主体の「桑飼地区支え合い交通運営協議会」が誕生し、令和5年10月に桑飼地区内で「よさの乗合交通（以下、乗合交通）」の実証運行をスタート。さらに、6年10月からは加悦地域全域にエリアを拡大し、「加悦地域支え合い交通運営協議会（以下、協議会）」として、本格運行を開始しています。

「住民の皆さんの買い物や通院

など、お出かけのための移動手段をどうするかが課題でした。誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりをめざして、地域で何とかしていこうという思いで協議会を立ち上げ、運行しています。加悦地域の皆さんの暮らしの支えになれば」と話すのは、協議会会長の西村良久さん。



よさの乗合交通に乗車する利用者

加悦・与謝・桑飼地域の各エリアから登録されたドライバーは、現在11人。顔が見える安心で便利な乗合交通を、ぜひご利用ください。

事例 3

命を守る 助け合い

いつもの取り組みで もしもに備える

日

本は地震や台風などによる大雨・洪水、土砂災害といった自然災害が頻発する国です。丹後地方においても、昭和2年の北丹後地震や平成16年の台風23号、平成30年の7月豪雨など、大きな災害を経験してきました。今年で30年が経過した阪神淡路大震災（平成7年）や東日本大震災（平成23年）、令和6年

ことかもしれません。「誰かがやっている」まちづくりから「わたし（たち）にもできる」まちづくりへ。

一人ひとりの「志」や「能力」を引き出し、つないで協働するパートナーシップで「住民が主人公となるまち」をめざしましょう。



町ホームページ